

## 造影剤腎症予防クリニカルパスの改善に向けて-造影剤腎症に関する看護師の意識の変化-

【目的】慢性腎臓病患者は、心血管疾患、特に冠動脈疾患の発症率が高く、予後を左右する因子となっている。しかし冠動脈インターベンションの為には、造影剤使用が避けられず、腎機能増悪のリスクを伴うことが問題である。当院では、電子カルテ上でクリニカルパス(以後、CP)を運用しており、慢性腎臓病患者が心血管カテーテル検査や治療を受ける際、CAG 及び PCI パスをメインパスとし、造影剤腎症予防 CP を Add-on した形式で使用している。造影剤腎症予防 CP を使用することで、輸液管理や検査を確実に行うことができた。しかし、造影剤腎症予防 CP には、看護に関する項目が組み込まれておらず、看護師の造影剤腎症予防に対する意識が低く、また患者に対しては、統一したオリエンテーションが行われていなかった。今回、勉強会の実施やマニュアルの作成、造影剤腎症予防 CP の見直しを行い、使用することで、統一したオリエンテーションが行えるよう取り組んだ。【方法】当病棟看護師を対象に、その取り組み前後の造影剤腎症予防に関する看護師の意識の変化についてアンケート調査を実施した。【結果】看護師の造影剤腎症に関する意識が低いことがわかった。そこで、医師からの勉強会を開催し、マニュアル作成を行ったことにより、造影剤腎症に関する看護師の意識が高まり、患者に統一したオリエンテーションを行うことができた。【結論】マニュアルの運用、造影剤腎症予防 CP の見直しと使用により、看護師の造影剤腎症に対する知識が深まり、予防への意識が高まった。